

# 平成24年3月期 第2四半期 決算説明会

平成23年11月9日



大林組

## 免責事項

当資料に記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため実際の業績は、様々な要因の変化により、記述されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、当資料は、投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。



# 平成24年3月期 第2四半期 決算説明

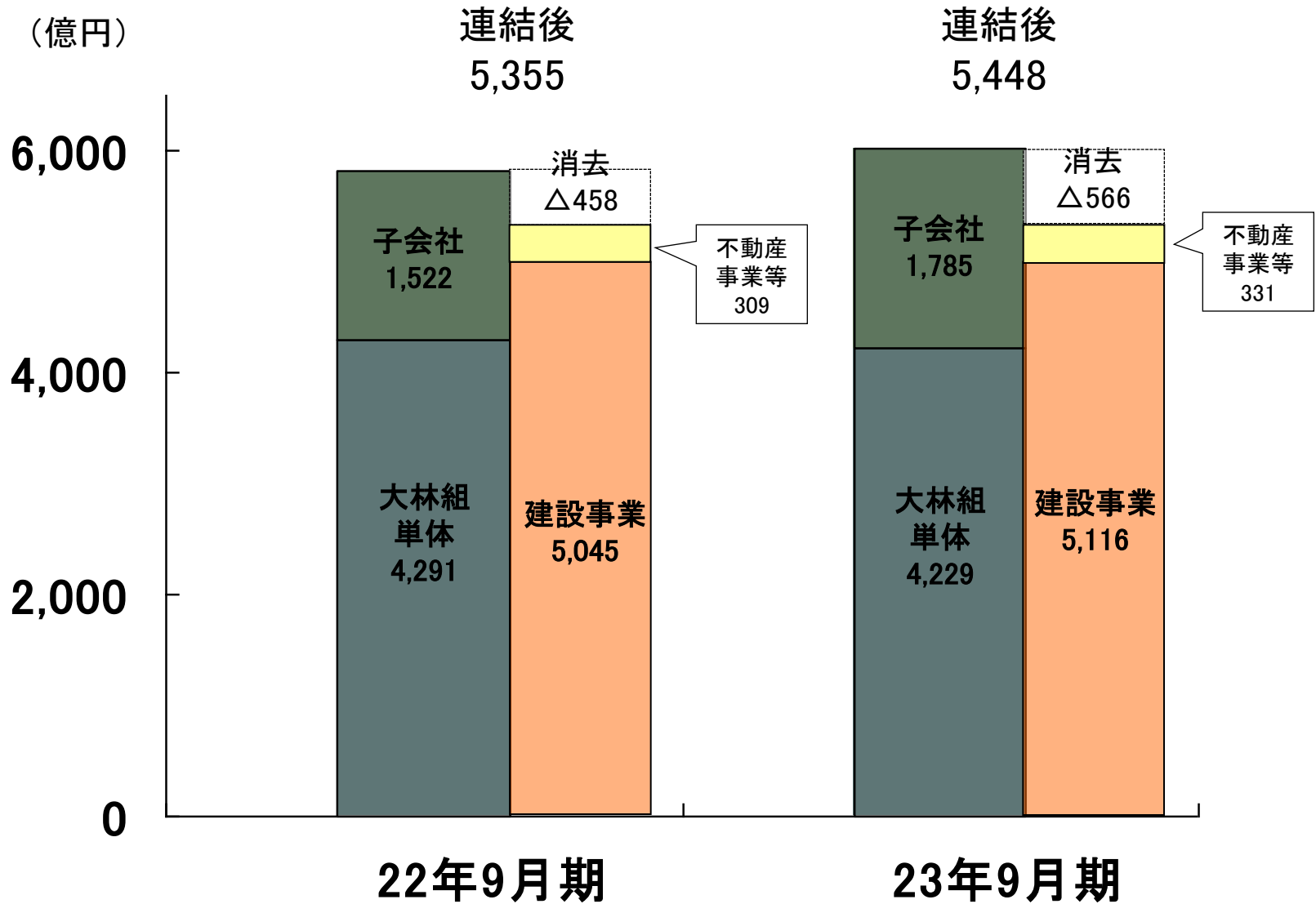
---

# 【連結】決算の概要

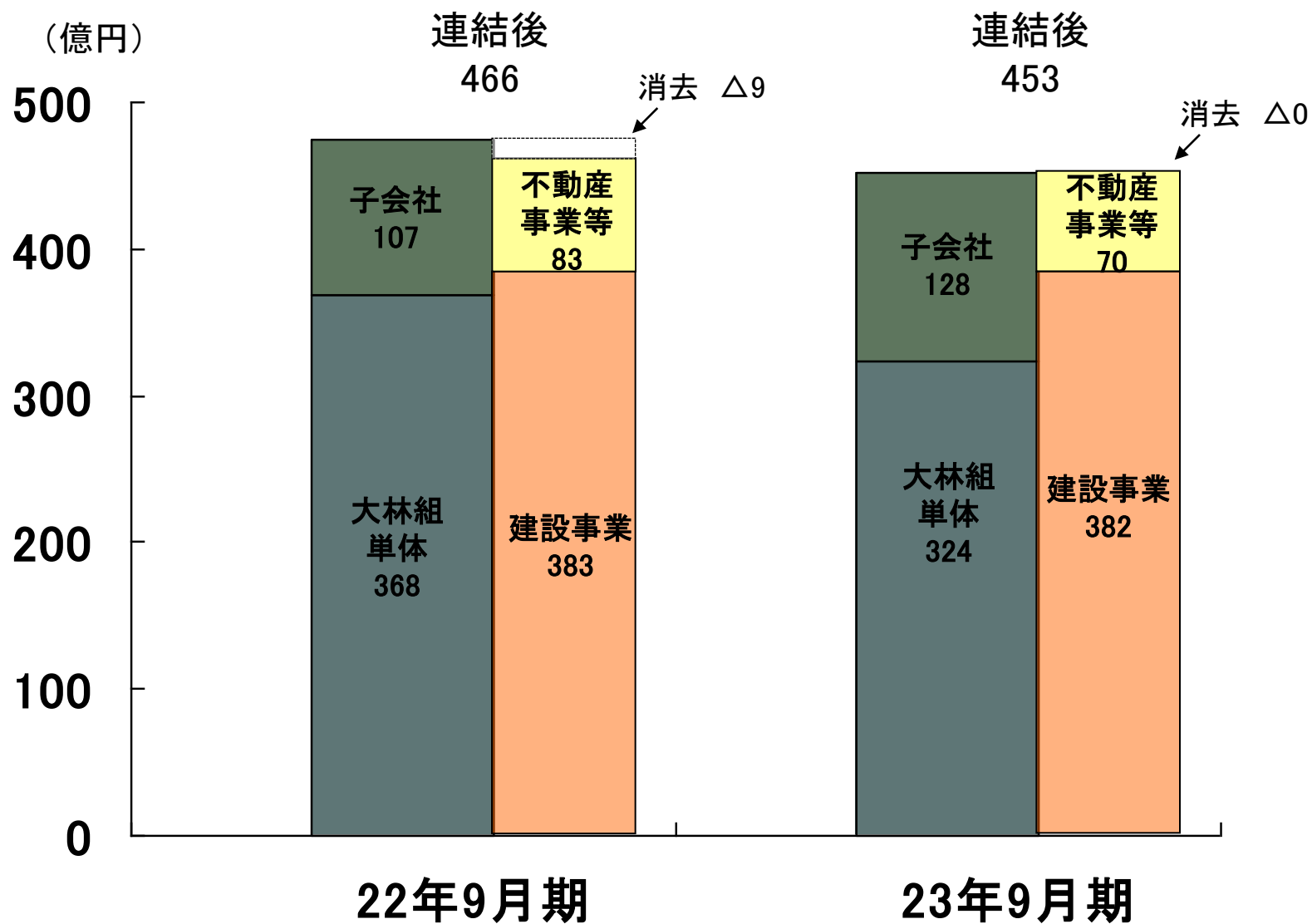
(単位:億円)

	22年9月期	23年9月期	増減
売上高	5,355	5,448	92
売上総利益	466	453	△13
営業利益	82	63	△19
経常利益	74	61	△12
四半期純利益	49	115	65

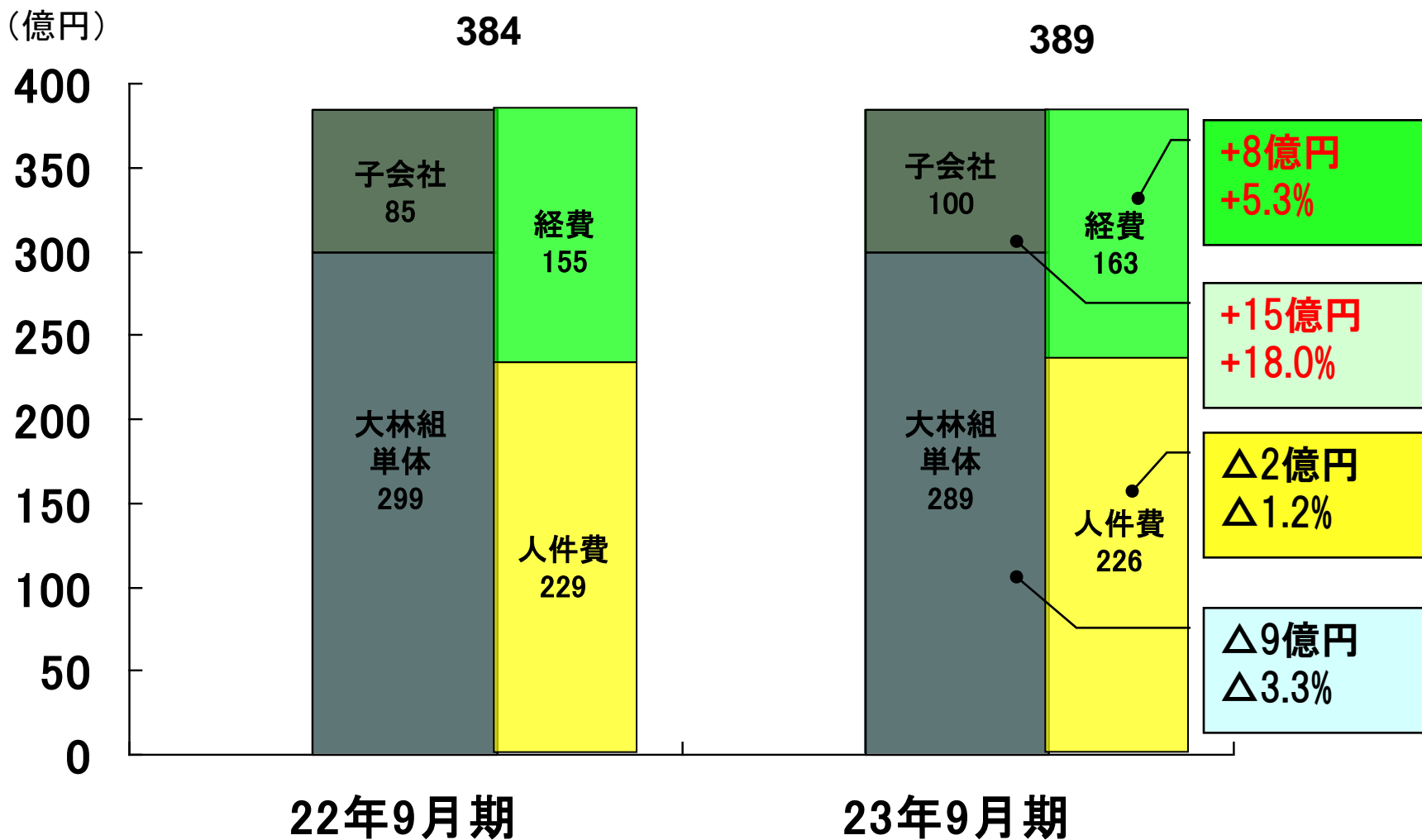
# 【連結】売上高



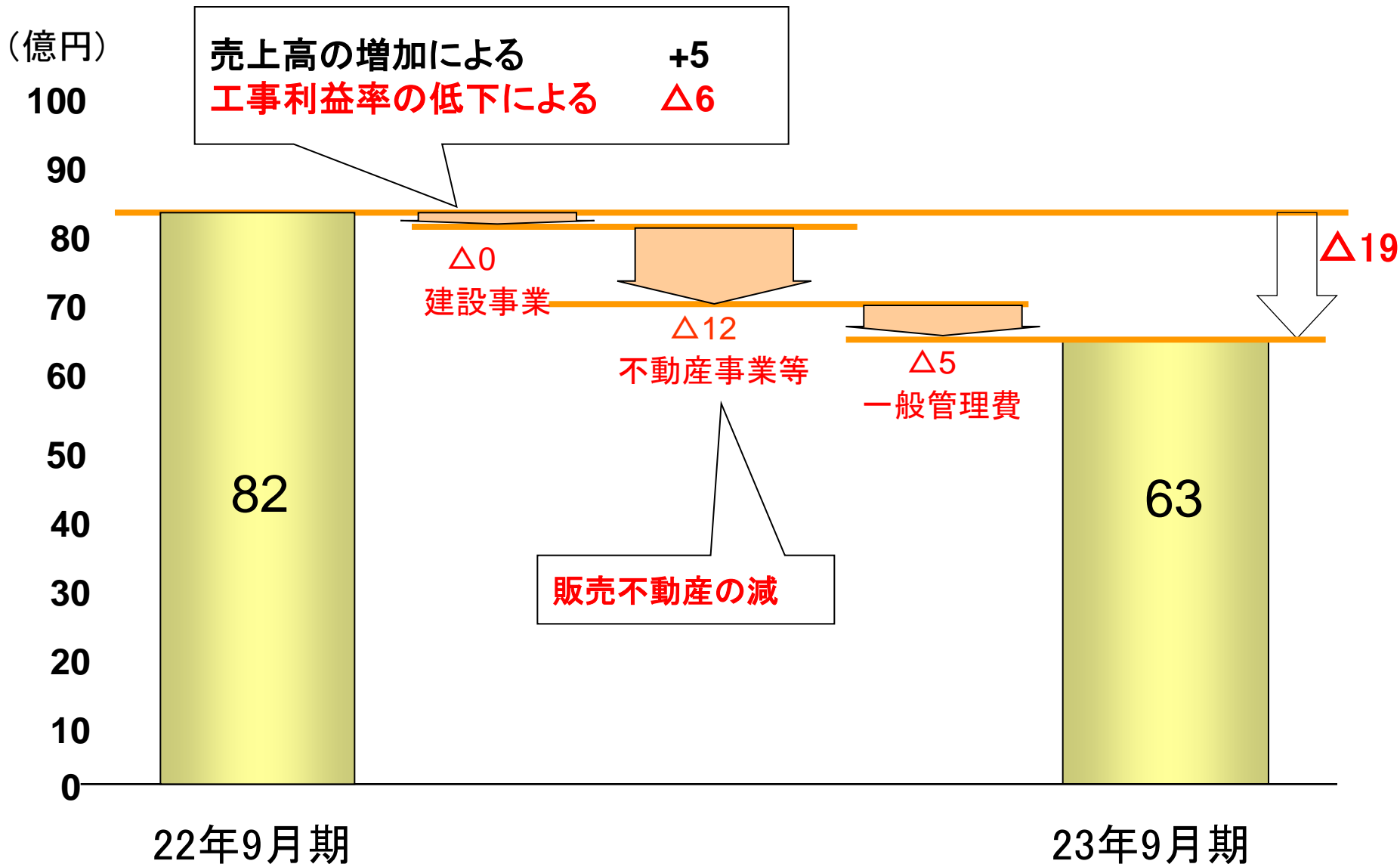
# 【連結】売上総利益



# 【連結】一般管理費



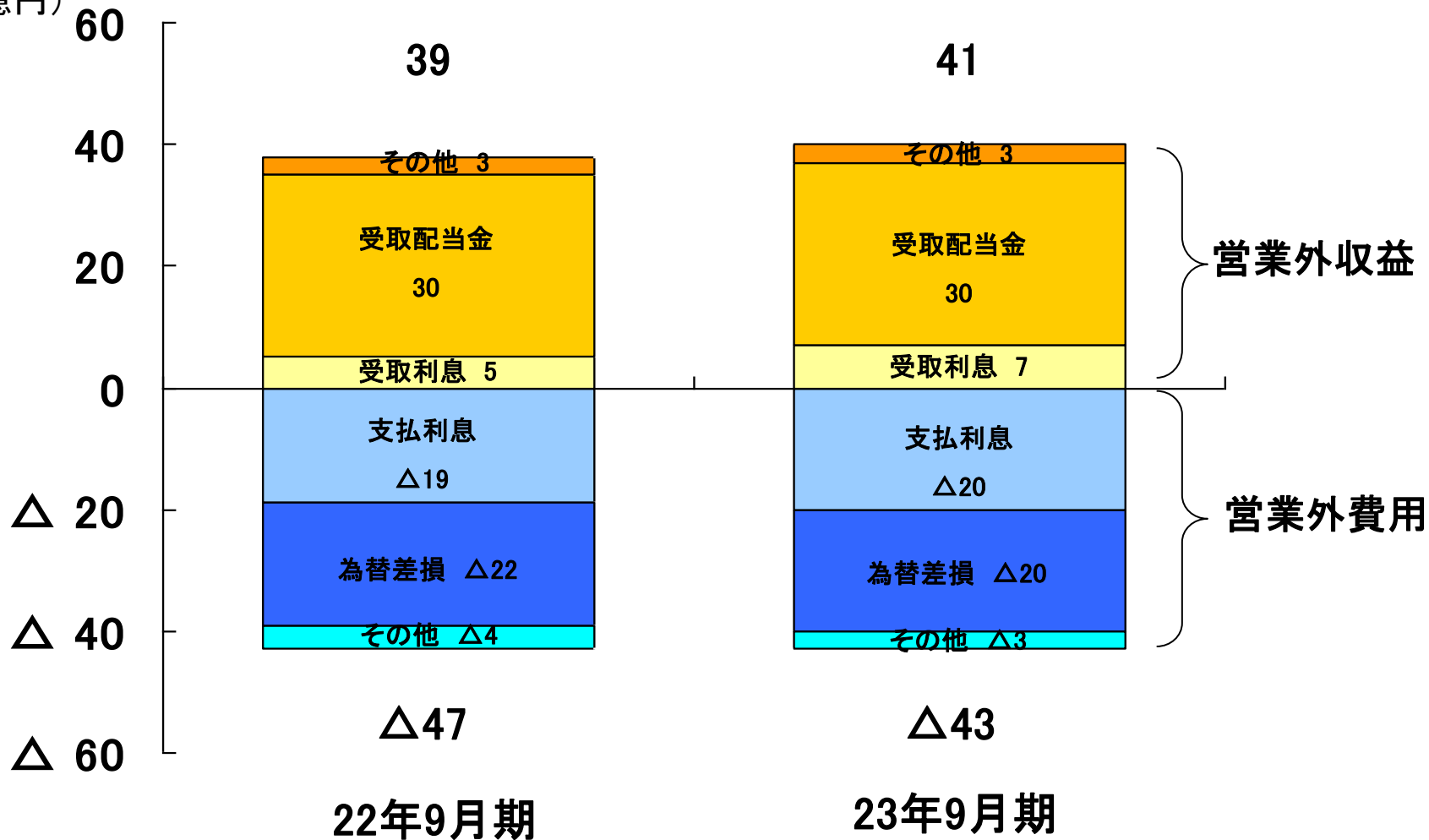
# 【連結】営業利益の増減要因





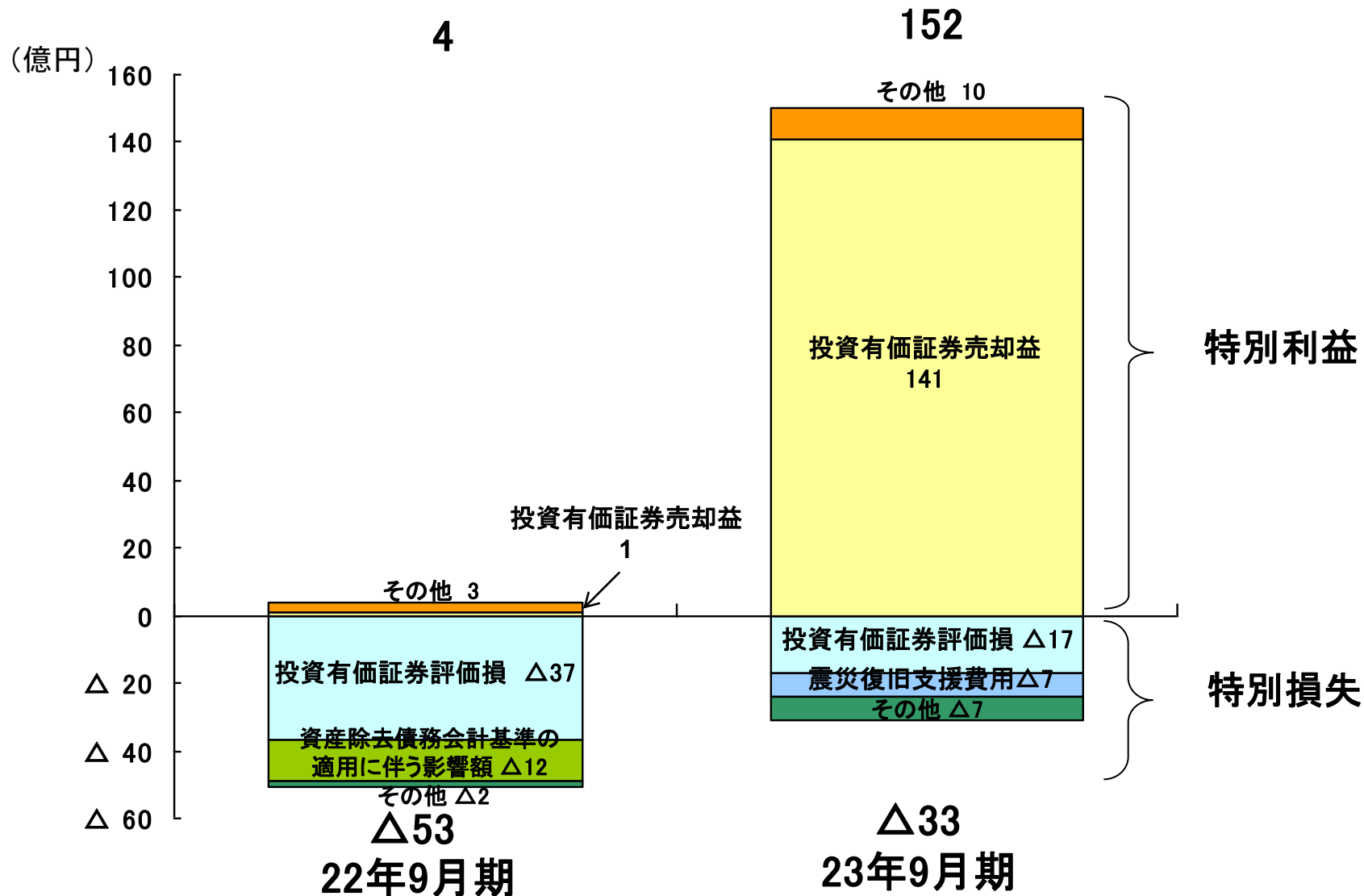
# 【連結】営業外収益及び営業外費用

(億円)



収支尻	△8	△1	増減 +6
-----	----	----	-------

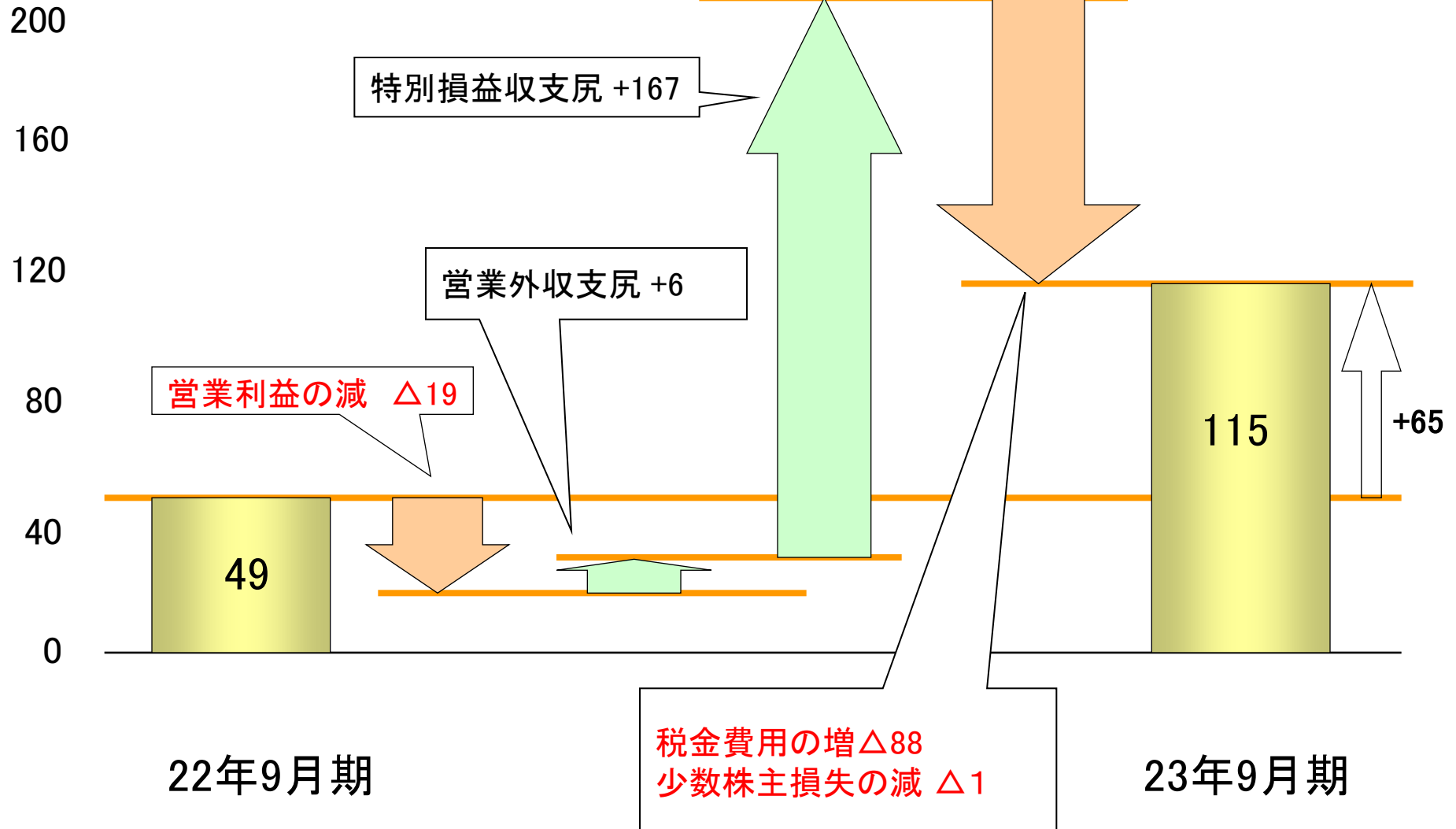
# 【連結】特別利益及び特別損失



収支戻	△48	119	増減 167
-----	-----	-----	--------

# 【連結】四半期純利益

(億円)



# 【連結】包括利益(23年9月期)

(億円)

120

100

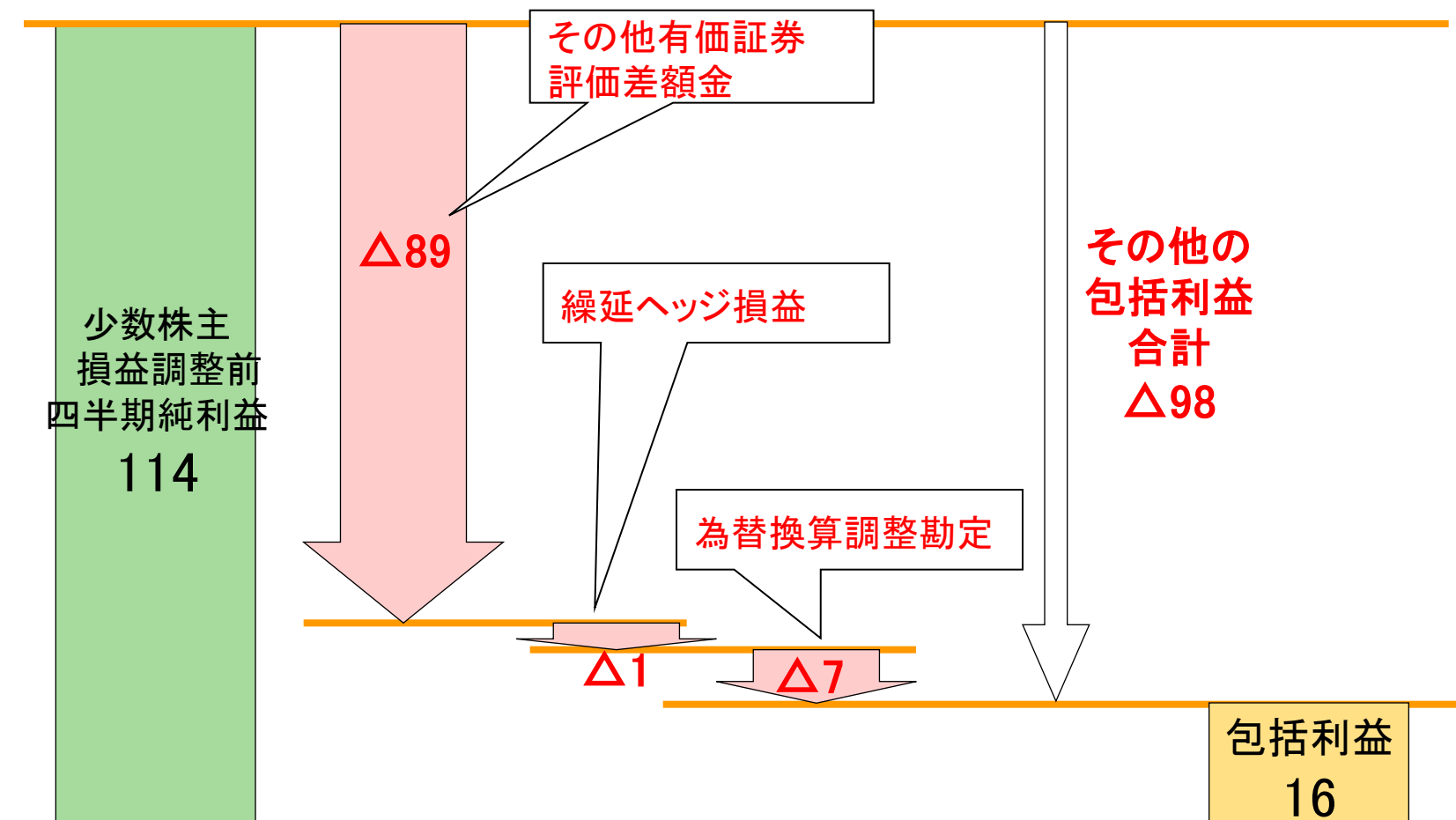
80

60

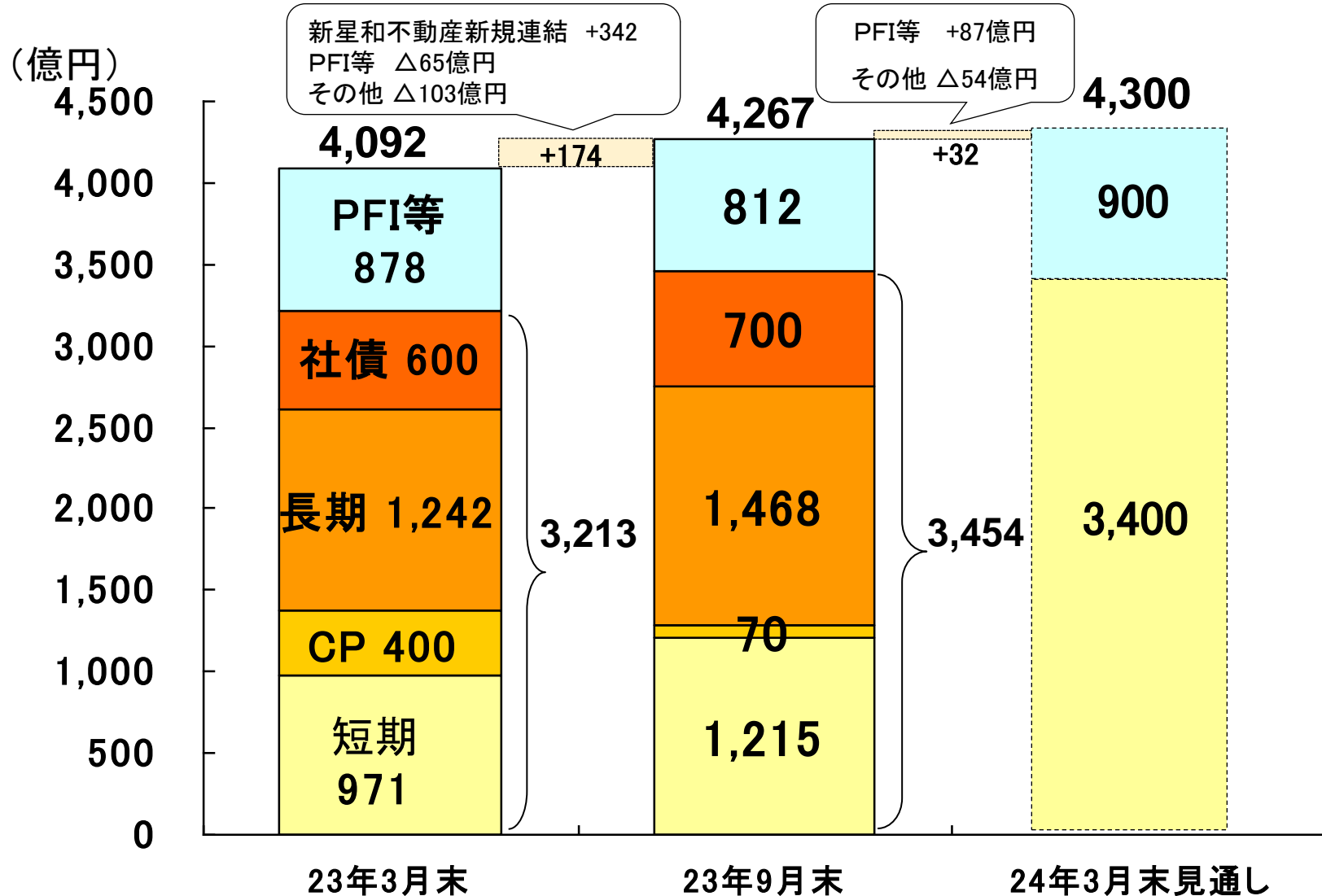
40

20

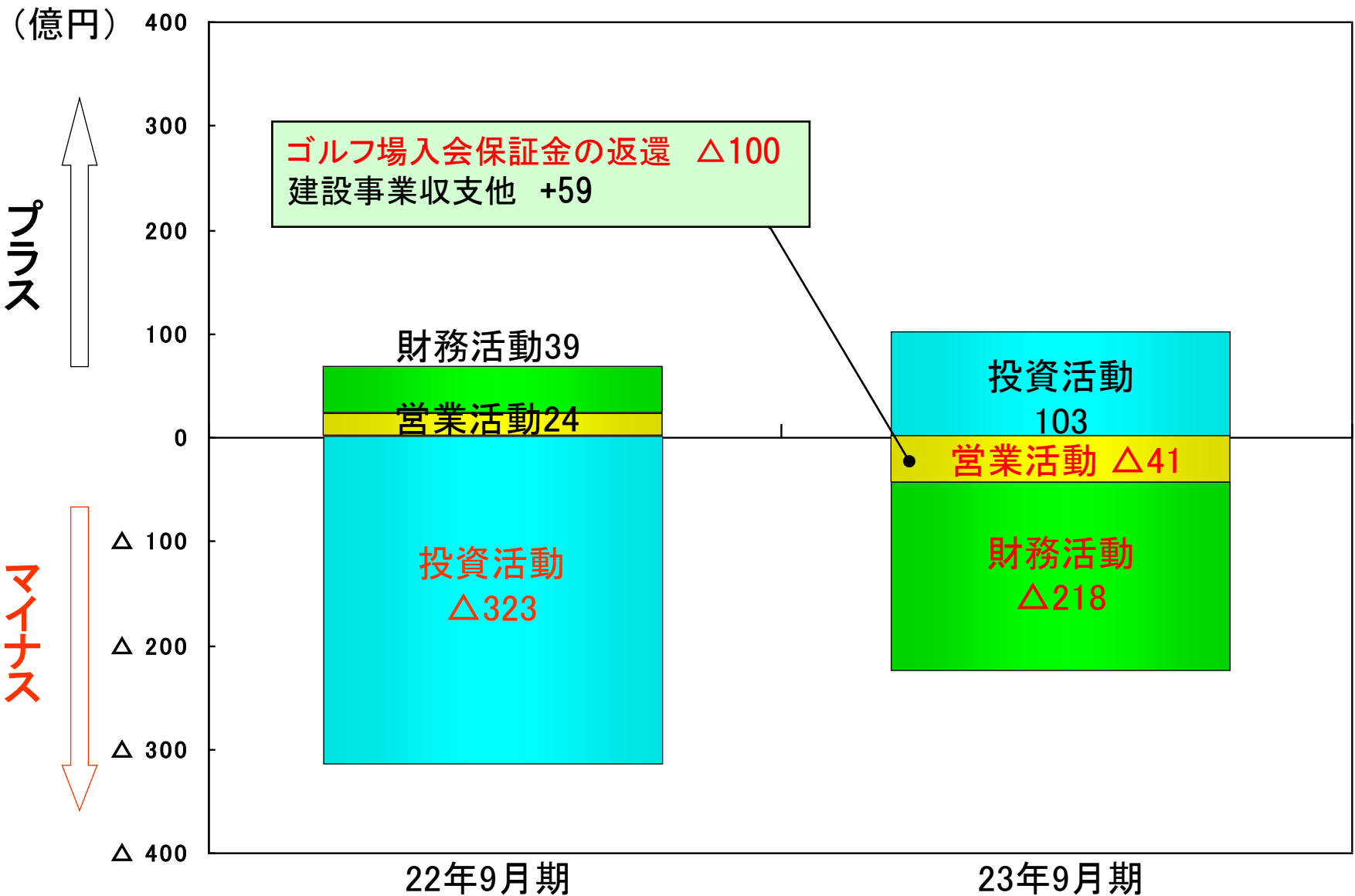
0



# 【連結】有利子負債の推移



# 【連結】キャッシュ・フロー



# 【連結】平成24年3月期 業績見通しの概要

(単位：億円)

	23年3月期	24年3月期 見通し	増減
売上高	11,318	12,800	1,481
売上総利益	997	1,075	77
営業利益	231	280	48
経常利益	222	285	62
当期純利益	154	150	△4

# 【単体】売上高の見通し

合計

10,576

9,092

9,700

+150

9,850

前期比

合計  
+757億円

(億円)

12,000

不動産事業等

203

海外土木

469

9,000

国内土木

1,994

海外建築

172

6,000

国内建築

7,735

3,000

0

22年3月期  
実績

23年3月期  
実績

24年3月期  
5月発表値 今回見通し

不動産事業等  
△283億円

海外土木  
△323億円

国内土木  
△36億円

海外建築  
+29億円

国内建築  
+1,371億円

△50

△50

+250

150

150

1,750

300

7,500

200

200

1,500

300

7,500

433

473

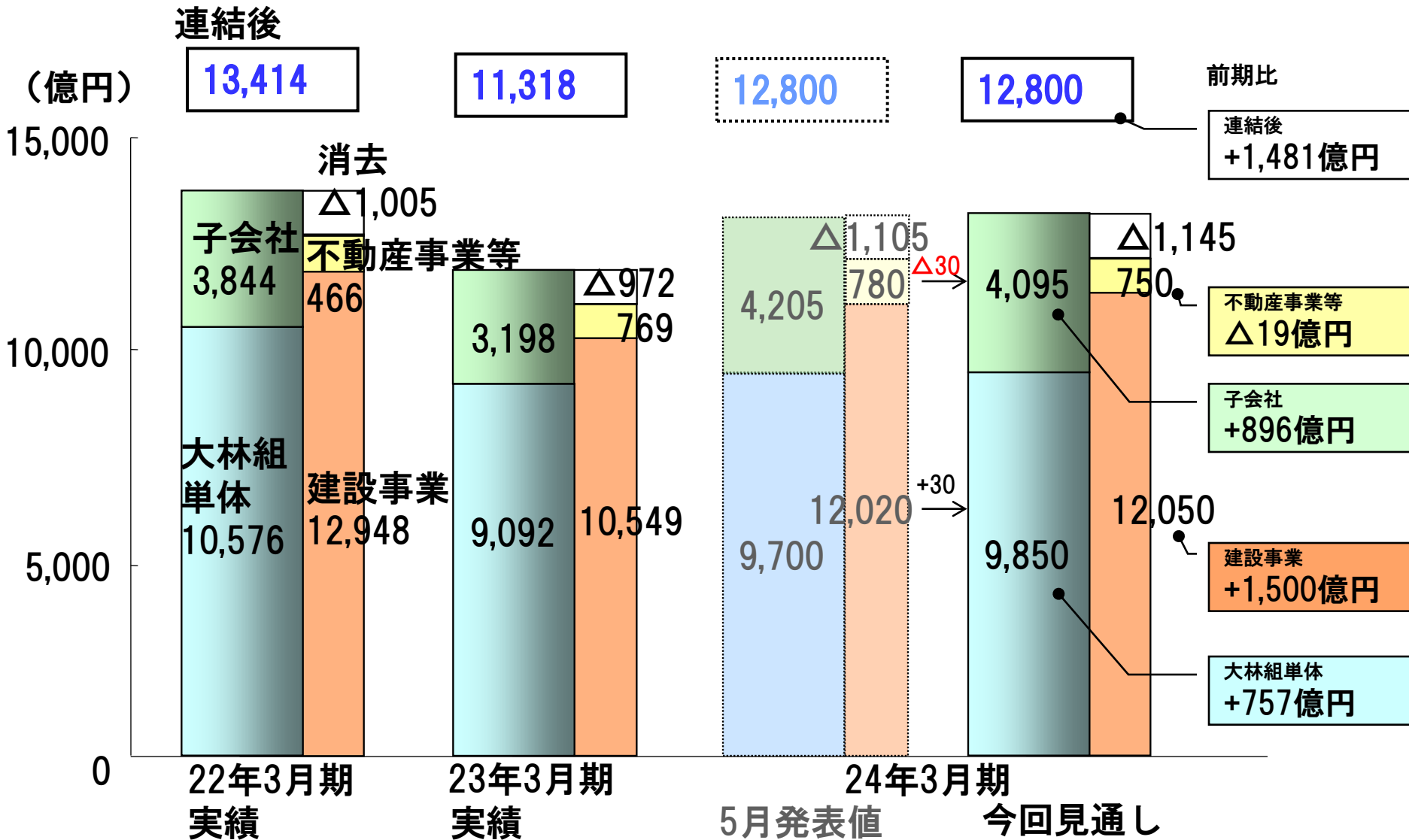
1,786

270

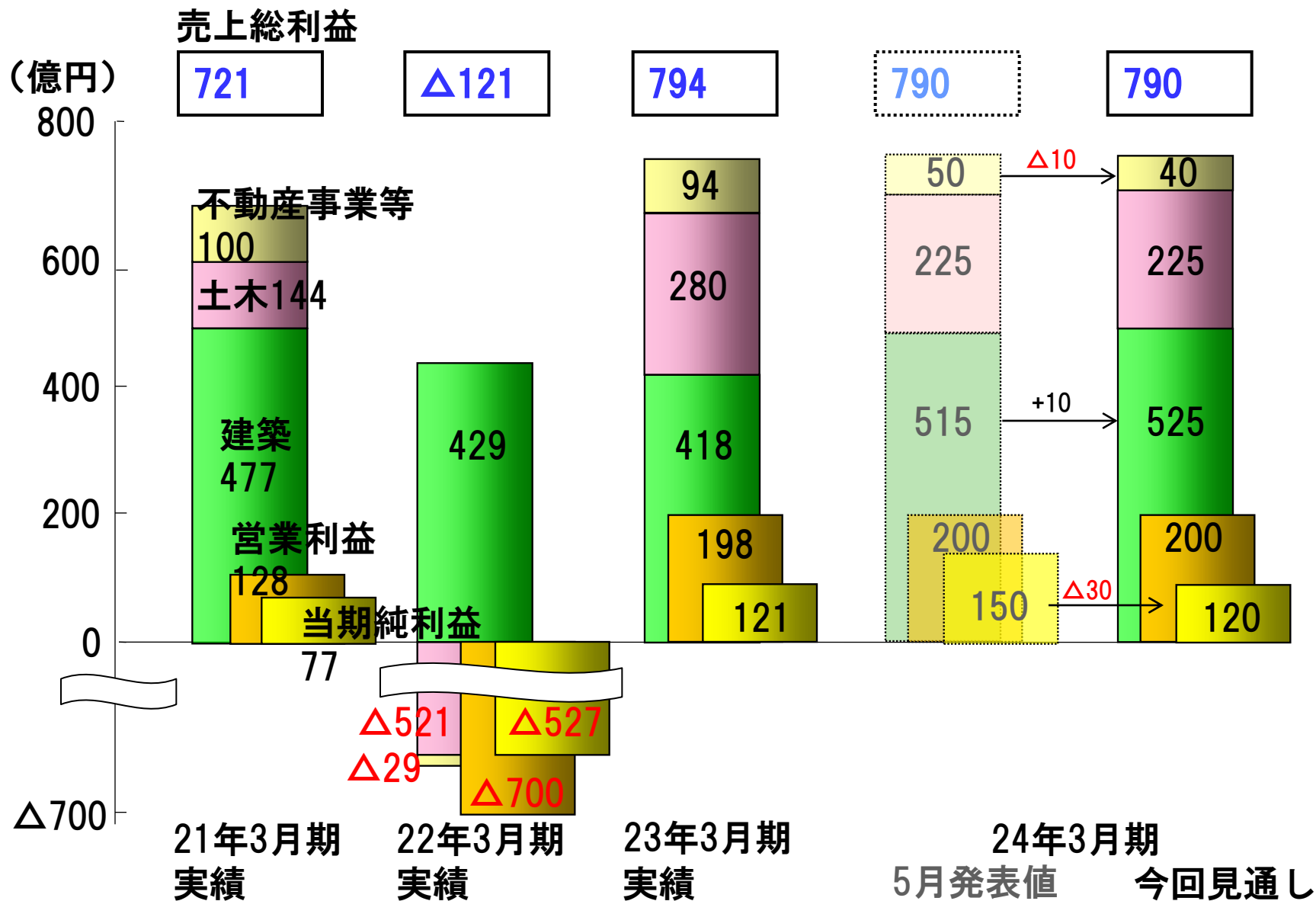
6,128



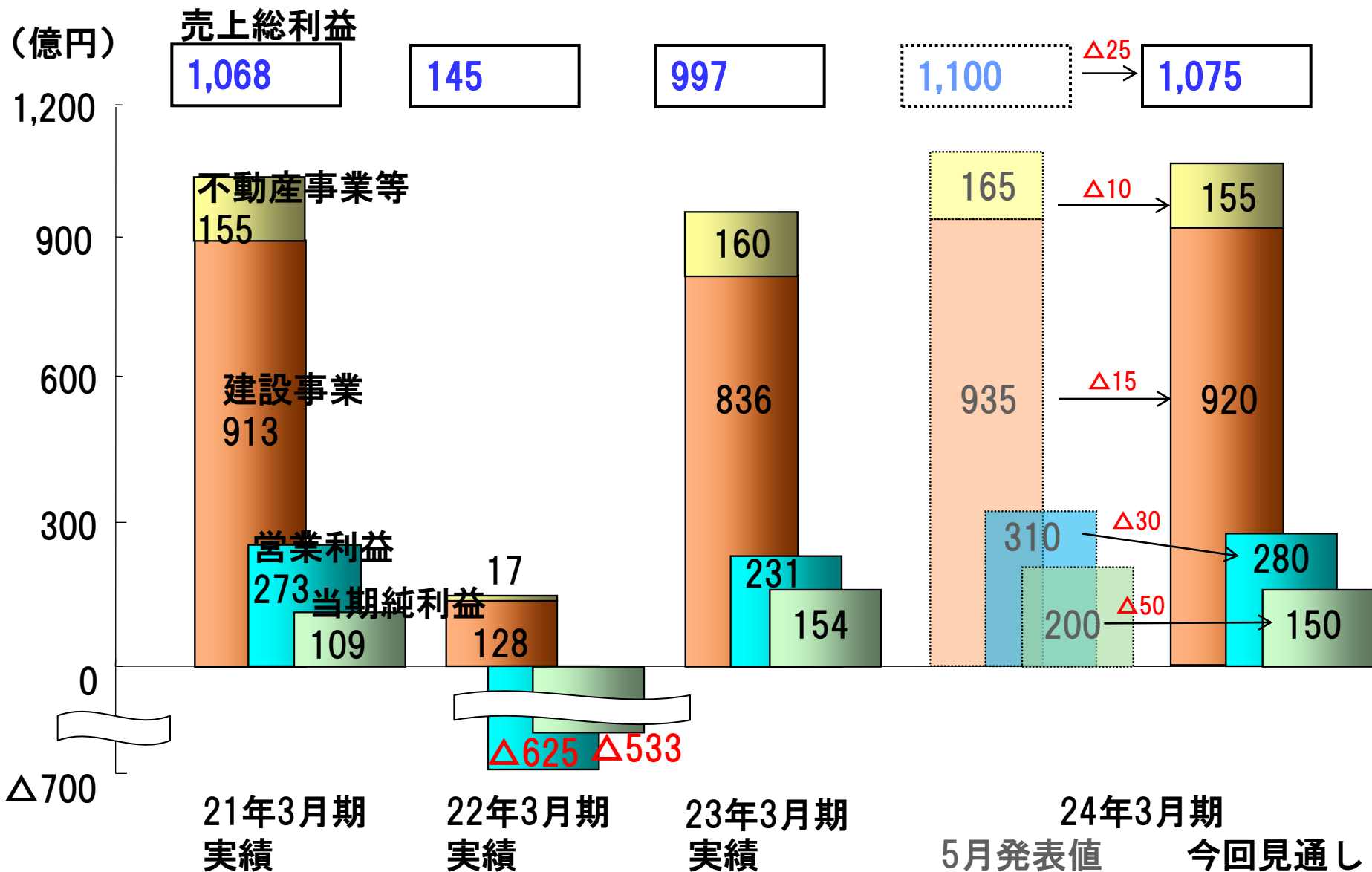
# 【連結】売上高の見通し



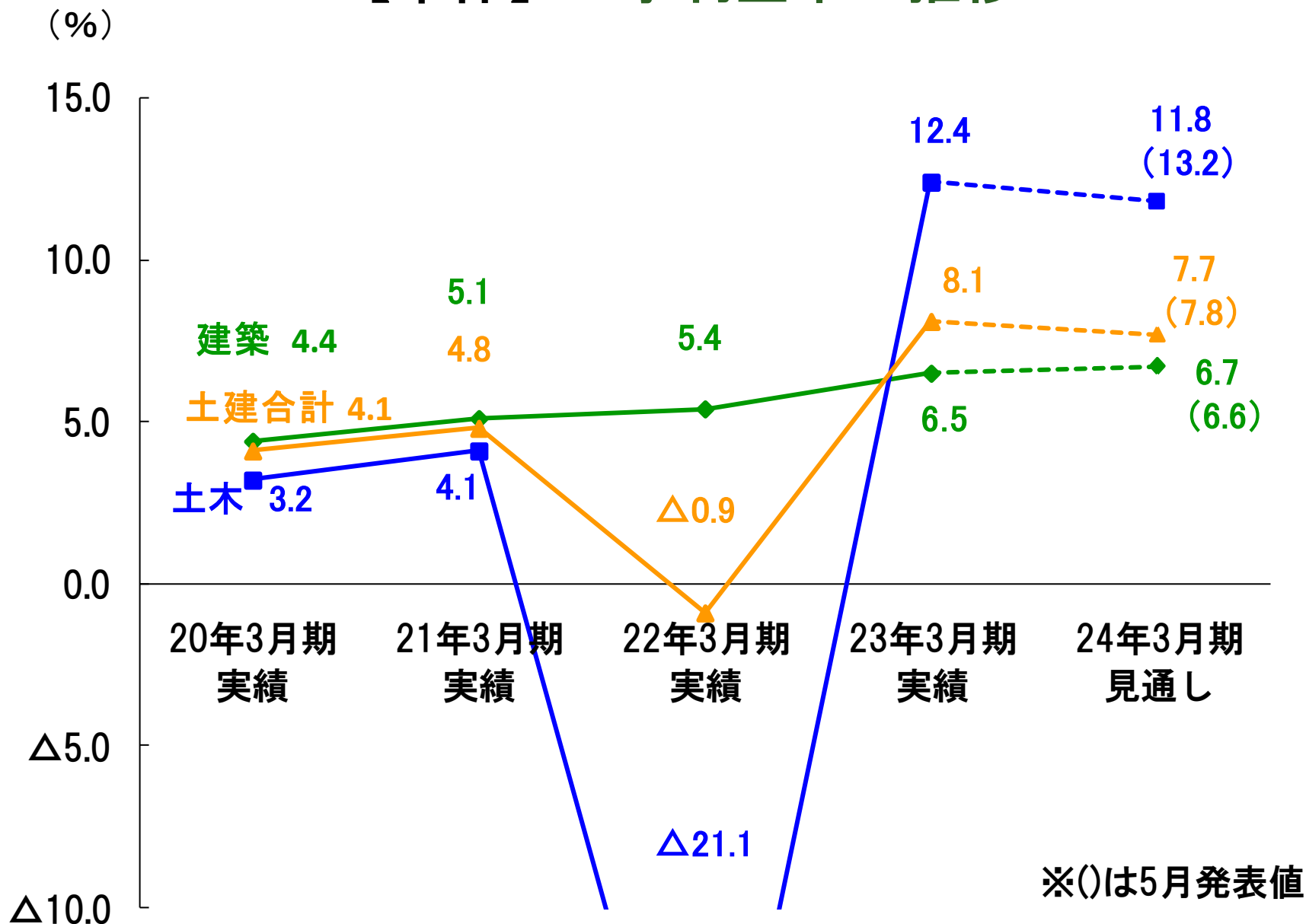
# 【単体】売上総利益・営業利益・当期純利益の見通し



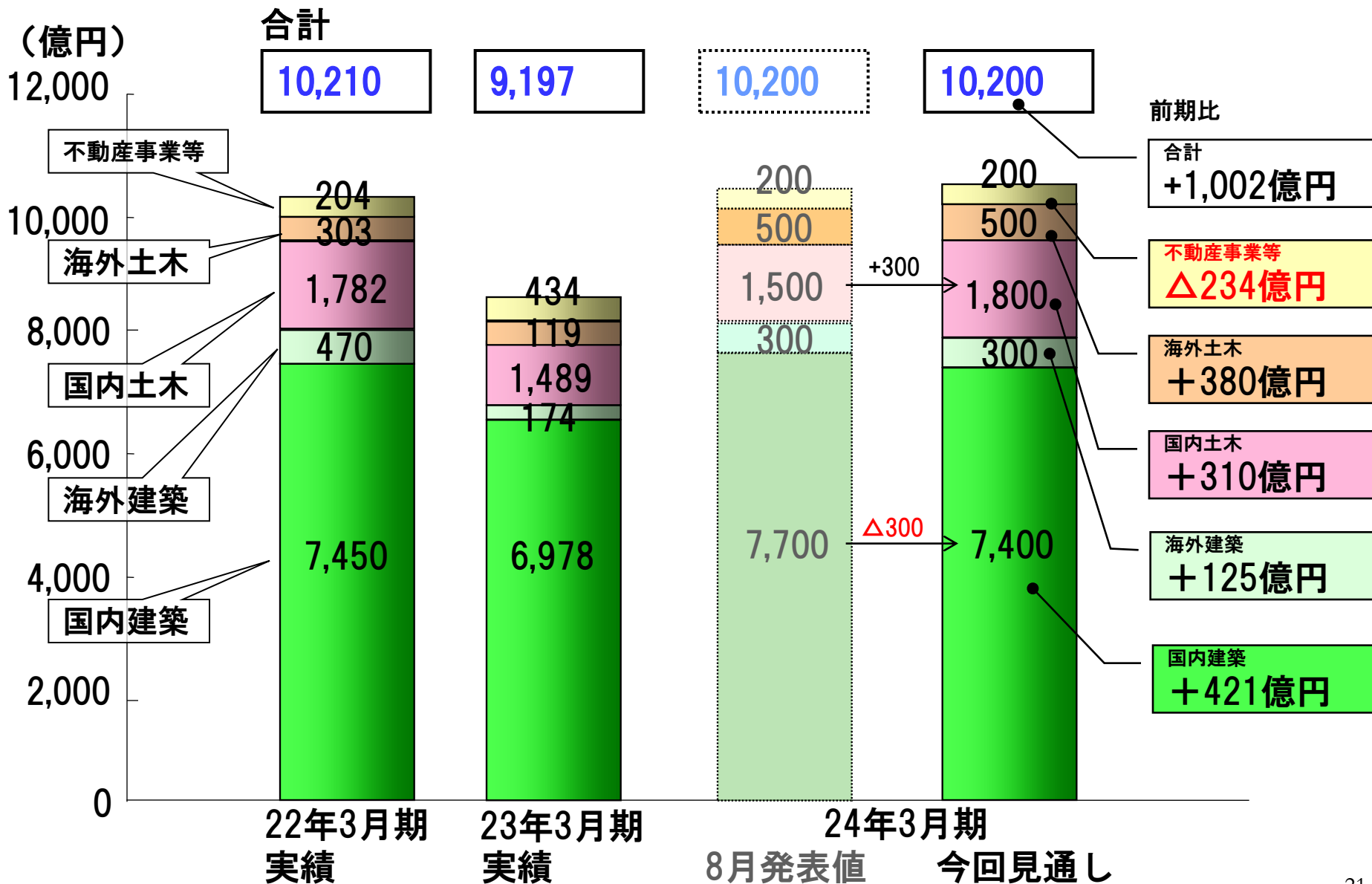
# 【連結】売上総利益・営業利益・当期純利益の見通し



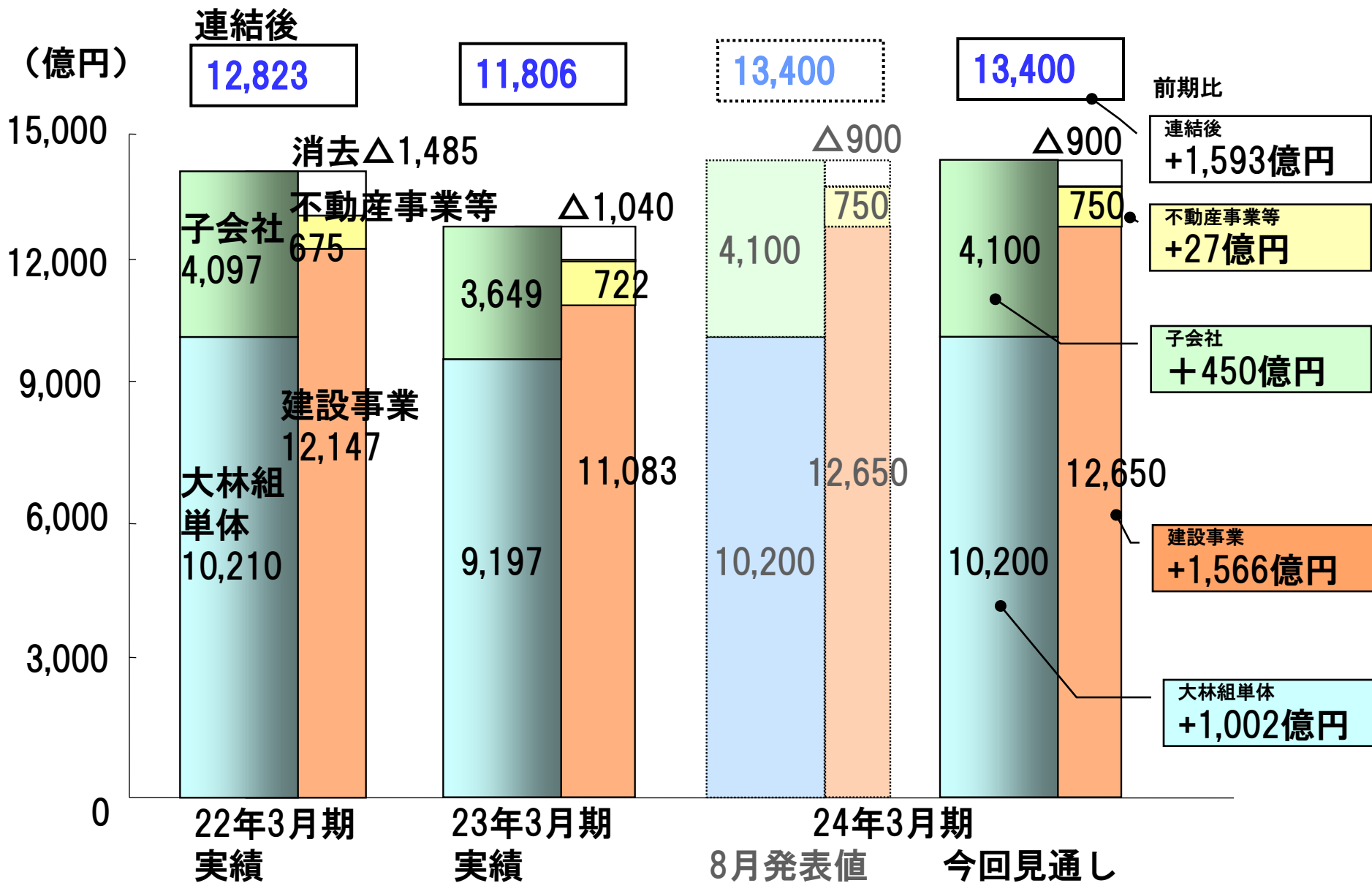
# 【単体】工事利益率の推移



# 【単体】通期受注高見通し



# 【連結】通期受注高見通し





私たちが、つくります。

**We build.**  
**OBAYASHI**  
**toward 2011**

# 経営課題への取り組み

---

# 1 当社を取り巻く事業環境①

## 災害復旧・復興

- ◇東日本大震災復旧・復興
- ◇台風による風水害の復旧
- ◇災害に強い国土・産業基盤整備

※ タイ大洪水は状況を注視していく

当社の技術・ノウハウ  
を結集し対応

## 建設投資の動向

H23.10.24 (財)建設経済研究所公表	H22(見込み)	H23(見通し)	(兆円) H23(見通し)	震災前 (H23.1)
建設投資	41.13	44.64	40.21	
(内)民間非住宅建築	7.62	7.99	8.08	
(内)民間土木	4.50	4.57	4.17	
(内)政府土木	14.36	16.00	11.68	

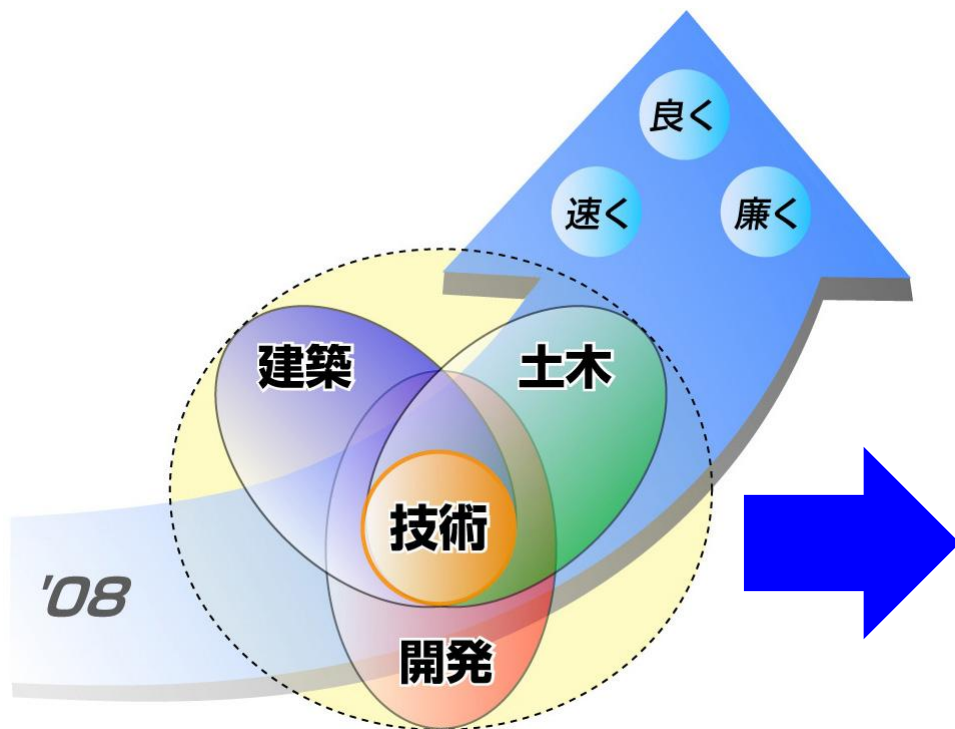
- ◇ 製造業を中心とした設備投資の海外シフト



# 1 当社を取り巻く事業環境②

## 中期経営計画'08

【平成20年度開始】



## 現在の事業環境と対応

### 【社会経済状況】

- ◇東日本大震災
- ◇歴史的円高⇒製造業空洞化
- ◇財政不安、欧米の債務問題

### 【建設市場】

国内建設市場拡大は期待できず

- ◇広い視野で新たに参画可能な分野を求める
- ◇海外市場での更なる事業推進
- ◇「技術」そのものを収益源に

**「収益基盤の多様化」を主眼に**

## 2 経営課題への取り組み — 建築事業①

### 工事量と適正利益の確保

- ◇市場規模の大きい地域(首都圏)への経営資源の集中
- ◇耐震補強、省エネ改修などのリニューアル工事拡大
- ◇調達力強化による原価低減

### 成長が期待される分野への取り組み

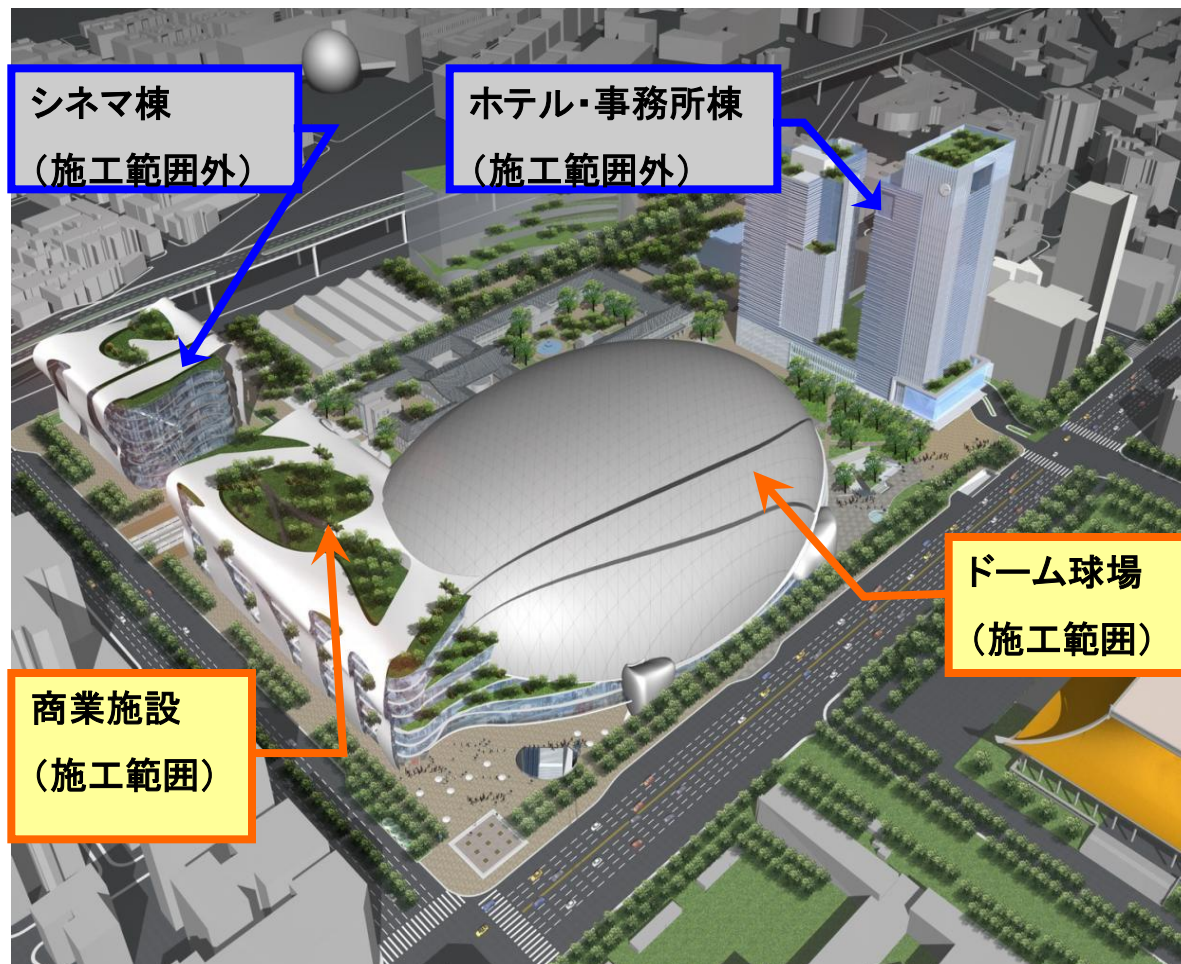
- ◇エネルギー分野【省・創・蓄エネルギー】
- ◇環境、医療、福祉、医薬関連分野
- ◇ICT新デバイス関連分野

### 海外事業の戦略的展開

- ◇日系製造業の東南アジアを中心とした海外設備投資への対応
- ◇現地資本・グローバル企業からの受注も確保

## 2 経営課題への取り組み — 建築事業②

### 現地資本からの受注拡大 — (仮称)台北ドーム新築工事



#### (仮称) 台北ドーム

■ 台北市に多目的ドーム  
球場、商業施設、ホテル・  
事務所、シネマ等を建設

■ 当社のドーム施工実績  
が受注に繋がる



### 3 経営課題への取り組み — 土木事業①

#### 国内の事業環境の変化への対応

- ◇ 震災復興と防災、減災へ向けた社会インフラ整備
- ◇ 社会インフラの「新設から維持・更新へ」の潮流を捉えた対応  
⇒ 技術・ノウハウを要する「供用しながら」の維持・更新に対応
- ◇ 環境関連・エネルギー関連分野への注力

#### 組織・体制の強化

- ◇ 総合評価方式応札体制の更なる強化
- ◇ 新規事業発掘・育成への人材シフト

#### 海外事業の戦略的展開

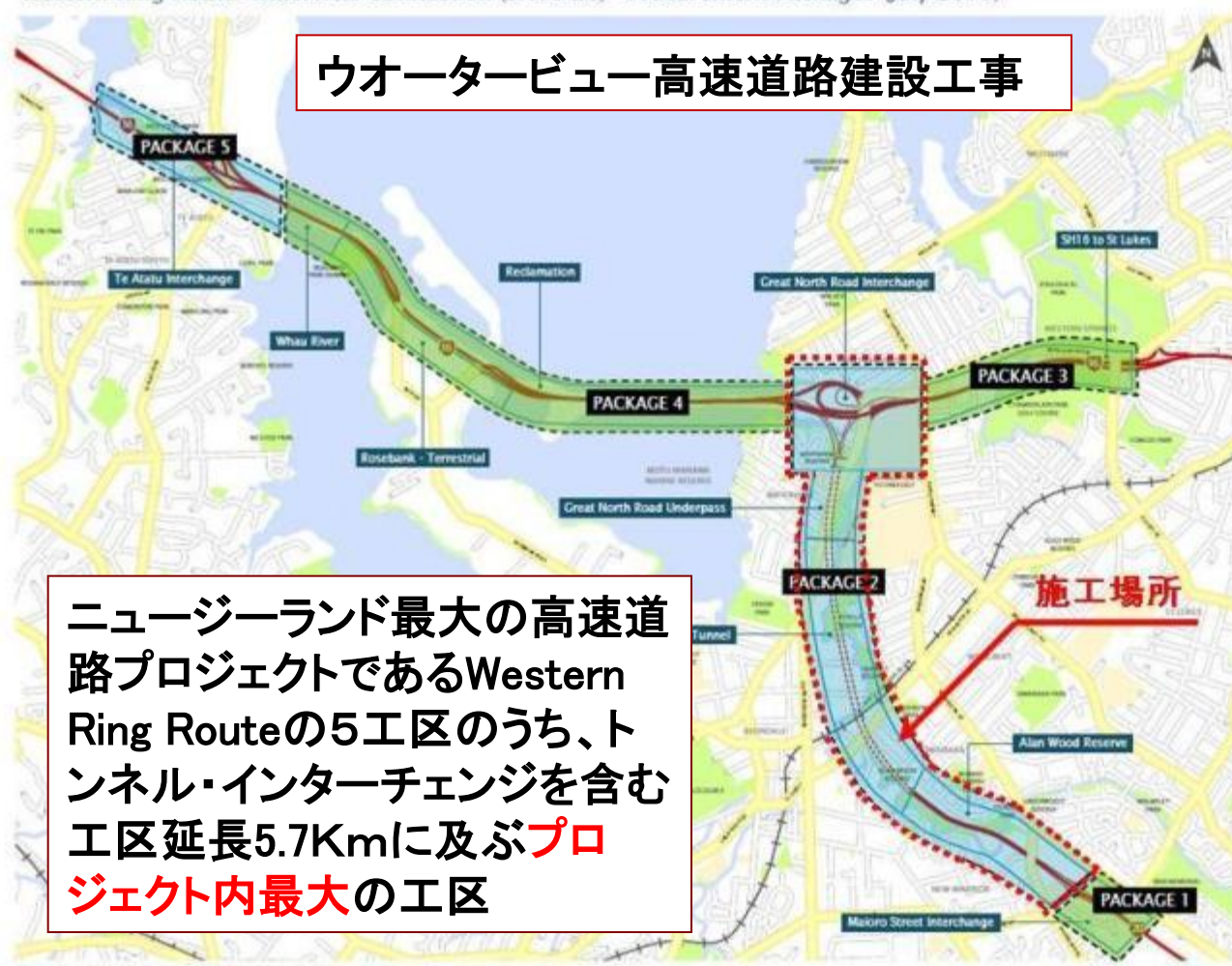
- ◇ カナダ ケナイダン社による北米事業展開の強化
- ◇ アジア、中近東、**オセアニア**等の社会インフラ整備事業へ参画



### 3 経営課題への取り組み — 土木事業②

## ニュージーランド最大の高速道路プロジェクトへの優先交渉権獲得

Western Ring Route: Waterview Connection (SH16-20) - Procurement Packages (July 2010)



Note: Location of dashed boundary lines between packages are indicative only.



## 4 経営課題への取り組み — 開発事業・技術

### 開発事業：

#### 賃貸事業を主体とした安定収益基盤を拡充

- ◇ 大林組、大林不動産、新星和不動産の連携

### 技術：

#### 「売れる技術」、「顧客のニーズに合致した技術」の開発

##### ◇環境関連技術

- ◎低炭素化(CO2削減)技術、省エネ技術

##### ◇耐震・制振技術

##### ◇BIMの推進

- ◎「建設業におけるBIM推進のトップランナー」を目指す

## 5 技術開発について①

### 新技術が決め手となって中尊寺本堂の耐震改修工事を受注

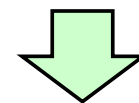


(中尊寺本堂外観)

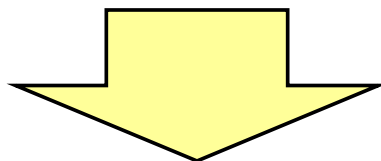
#### 「スーパー板壁工法」

##### ■顧客のニーズ

- ・震災復旧、耐震補強
- ・創建当時の美しさをそのまま残す



■伝統木造工法である「落とし込み板壁」を改良した「**スーパー板壁工法**」により、外観を変えることなく補強が可能



**顧客のニーズを捉えた技術開発**

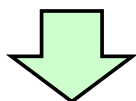
## 5 技術開発について②

### 特許資産の規模ランキングで当社が建設業界第1位に

【建設業界 特許資産規模ランキング2011】

順位	前年順位	企業名	特許資産規模 (pt)	登録件数
1	5	大林組	6,083	178
2	3	鹿島	5,311	191
5	4	大成建設	4,227	203
6	2	清水建設	4,205	202
8	9	竹中工務店	3,298	195

■単なる特許件数の比較ではなく、特許資産を**質と量**の両面から評価



■登録件数は低いものの、**質の高さ**が評価された



(URUP工法で地上から発進するシールドマシン)

(特許分析会社パテント・リザルト社による)

#### 注目度の高い技術

■URUP工法に用いられた地上近くの弱い地盤の変状を防止する技術

■狭隘で大型重機の使用が困難な条件下でも効率よく縦穴の掘削作業を行う装置に関する技術 など



## 5 技術開発について③

### 技術研究所本館が第24回「日経ニューオフィス賞」を受賞



#### 日経ニューオフィス賞

- 日本経済新聞社とニューオフィス推進協議会により快適で機能的なオフィスを表彰
- 推進賞14件のうちの1件に選ばれる

#### 技術研究所本館

#### テクノステーション

■長さ90m、幅18m、高さ6mのワンルーム型の開放感あふれる執務空間

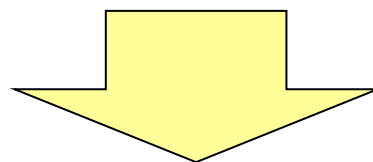
■「**技術のショーケース**」の役割も果たす



## 6 配当について

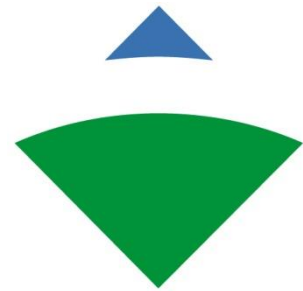
◎長期安定配当の維持

◎業績に応じた利益還元



平成23年度年間配当金は8円(予定)

※平成23年度中間配当は4円



**OBAYASHI**